

書類番号 : 創研-DB13-059 NC

作成日 : 平成25年 4月 2日

□ 出張報告書
■ 会議議事録



住友精密工業株式会社

件名

2013年4月度部内会議の件

部課名	認可	審査	作成
創事業研究部	上森		高橋 (教)

日 時	平成25年4月1日(月)15:45～17:15	場 所	FC/創研会議室
出席者	八木常務 高橋支配人 上森部長 久田技術主幹 ラボ長 内田G長 孫崎M 西田M、 佐藤M 今西M 森口AM 高橋(記)		
関連資料	2013年4月度部内会議資料		
配布先	出席者 ×1 久野M、法龍院AM		

下記にアクション事項をまとめる。

1. 共通事項

- 1.1. 来年度予算はつま先立った非常に厳しい予算。今年下期同様不要不急の出費は控えること。
- 1.2. 2012 年度下期研究成果報告会での発表タイトルを上森部長まで 4/1 中に連絡のこと。また、当日展示品の有無を 4/4 リハーサル(13:30～)までに連絡のこと。MEMS 関係も組み込む。
=>役員への成果報告会なので役員に理解できる資料とすること。
- 1.3. 2012 年度研究開発計画書成果報告ならびに 2013 年度研究開発計画書の作成:4/20 まで。中期計画も参考にすること。

2. 各 G 研究開発状況報告

2.1. 基盤技術連携 G:ALM 調査

- (1) 特になし。

2.2. 基盤技術連携 G:MEMS 開発

- (1) 研究開発製作番号は本年度一年間 DK 番をそのまま使用すること。

2.3. 複合材料実用化 G:HTCC

- (1) 本年度研究開発計画について上森部長を交えた協議の場を設定すること。
- (2) HIP を使用する目的を明確にしておくこと。(SPS と HIP の位置づけは?)
- (3) 予備試験の目的を明確にしておくこと。また、AL 柱を入れる目的(歪抑制)と関係を明確にすること。
- (4) 試作 BOX の性能評価まで研究開発対象とすること。

2.4. 複合材料実用化 G:潜水艦プロペラ剥離不具合

- (1) 技術要求仕様に対するコンプライアンス・チェックをまとめ MHI に早急(遅くとも 4 月出荷前まで)に回答しておくこと。
- (2) MHI 榊原氏には修理費用の件をフォローするメールを入れておくこと。

2.5. 複合材料実用化 G:TMC 関係

- (1) 航機部門と実用化のために成立する方法を検討すること。早めに航機部門と研究方針について協議し方向性を定める事。
- (2) コスト課題について 3 年前から STOP している。本年度進めること。(早い時期の見極めが必要)
- (3) 経済産業省からの声掛けは進めること。一方、JAXA との研究で CFRP との技術及びコスト・トレードを行い、優位性がないと判断するなら 1 年以内でも引き上げ判断を行う事。一方、優位性があると判断するなら進めること。

2.6. 材料・プロセスリサーチラボ関連

- (1) 15-5PH の報告書について上森部長にも事前に見せてもらいたい。
- (2) 熱交コラボ:新規膜厚計に関する記述が誤解を招きそうなので補足する。(久田 PE 説明)
(正)「新規膜厚計のラボテストは完了したので、これから実機テストに移行する。実機テストの実施は東ガスをターゲットにこれから申し入れる予定。」
=>旧膜厚計と新膜厚計では微妙に膜厚測定に誤差がでる。特に薄め(旧 400 μ m に対して新 350 μ m)に表示する点において、慎重に対応する必要がある。半年程度の期間で、実機データを蓄積して新膜厚計の信頼度を上げる必要がある。
- (3) LNG 基地海水調査用に入手した海水の廃棄ルールの有無についてコンプライアンス違反がないか調べなおす事。

2.7. 知財・技術管理 G

- (1) APCI 向け熱交コアのポートフォリオ構築相談とは？。
→(Post Meeting Note) APCI より熱交換器の生産を受注しているが、キー特許(フィン表面に折り目加工したコア・・・米・中で登録、欧・日は未登録)を APCI が単独で保有している為、転注される可能性がある。当社単独で何か特許を保有して転注を牽制できないか、という相談。

3. その他

- 3.1. 5 月度より報告内容は技術的にももう少し詳しくすること。一方、知財・技術管理 G は研究部内関連にのみ絞り簡素化すること。
- 3.2. 次回資料作成・司会・議事録担当は久野 M。

以 上